

山鹿市民医療センター開放型病院広報紙

5月号



Yamaga Medical Center



200号

発行所 山鹿市民医療センター 〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地 TEL 0968-44-2185(代) FAX 0968-44-2420(代) FAX 0968-44-0071(連携室直通)

つばさ200号 記念紙の発刊に寄せて



立夏の候、皆様におかれましては、ますますご壮健のことと拝察いたします。このたびつばさ200号 記念紙を発刊する運びとなりました。2008年10月に、創刊号が発刊され、当時の院長の本郷 弘昭先生と鹿本医師会長の故井上 尊文先生から、山鹿市立病院における

開放型病床や地域医療連携が紹介されています。それ以来、約17年の歳月とともに当センターは進化してきました。三師会の会長の先生方や石河院長の文章を、是非ご覧いただければと思います。

令和7年5月吉日
山鹿市病院事業管理者
別府 透



山鹿市民医療センター広報紙『つばさ』が200回の刊行となる節目を迎えられましたことに鹿本医師会を代表して心よりお慶びを申し上げます。

平成20年(2008年)10月1日に本郷 弘昭院長の下で創刊され、今回で200号となります。この広報紙が私共地元医

師会の会員との交流を深めるばかりでなく、市民の皆さんや行政に関わる方々への医療情報の提供や啓発に重要な役割を果たして参りましたことは言うまでもありません。最新の医療の提供や、鹿本医師会の会員との医療連携推進を通して、市民の生命・健康を守る大きな役割を果たして参ったこともご承知の通りです。

平成17年(2005年)の1市4町の合併による新山鹿市の発足においては、山鹿市立病院の整備改築は各方面から求められ、平成20年(2008年)9月に着工し、平成23年(2011年)4月に完成し、名称も山鹿市立病院から山鹿市民医療センターへと一新され、広報紙『つばさ』の歴史と期を同時にして発展し現在に至っています。

山鹿市民医療センターは、年々充実した公立病院へと進化し続けていますが、それを如実に表しているのが市民公開講座や、公開講演会の時期を得た講演内容やレベルの

高さであり、特筆すべきは令和5年(2023年)9月のマイクロウェブサージェリー研究会や、令和7年(2025年)3月の日本医療マネジメント学会といった全国規模の学会の開催であります。このような素晴らしい学会を山鹿市民医療センターの事業管理者の別府 透先生が会長として山鹿市で開催されましたことは「健幸都市」を謳う山鹿市にとりましても画期的で誇らしい出来事でした。

病院機能に関しましても9つの項目に関して指定医療機関としての認可を受けられており又、学会認定関連施設としても15の項目の学会での認定を受けられ臨床や学術に於いても大変誇らしい病院に作り上げておられます。これもひとえに別府 透事業管理者や石河 隆敏院長を筆頭に山鹿市民医療センターの全職員が一丸となった努力の賜であると思います。

私共、鹿本医師会と山鹿市民医療センターは例えますならば『つばさ』の両翼であり、これからも共に協力し合いながら鹿本地区の医療の発展に遇進して参りたいと思います。山鹿市民医療センターの益々のご発展を祈念いたしますと共にお互いに心強いパートナーであり続けますようどうぞ宜しくお願い申し上げます。

令和7年5月吉日
一般社団法人鹿本医師会
会長 幸村 克典

基本理念

いのち

地域住民の生命と健康への貢献

基本方針

山鹿市民医療センターは

- ① 患者さま中心の信頼される医療を行います
② 診療機能の充実に努め、質の高い医療を提供します
③ 地域の保健、医療、福祉の連携を推進します
④ 研修、研鑽に努め医療レベルの向上を図ります
⑤ 健全経営に努めます

CONTENTS

つばさ200号 記念紙の発刊に寄せて…… P 1
つばさ発刊200号に寄せて…………… P 2
山鹿市民医療センターのこれまで …… P 3・4
第27回日本医療マネジメント熊本支部学術集会開催報告… P 5
新規採用職員紹介 ……………… P 6・7
外来担当医表(5月) ……………… P 8

## つばさ発刊200号に寄せて



このたび、山鹿市民医療センター広報紙『つばさ』の発行200号を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。200号という節目を迎え、多くの医療関係者に医療情報を提供し続けてこられたことは、ひとえにご担当者のご努力とご尽力の賜物であり、その成果に深く敬意を表します。

近年、口腔ケアの重要性が認識され口腔ケアが入院期間の短縮につながることや誤嚥性肺炎の予防につながる事が証明されています。また、歯周病菌が糖尿病だけではなく心臓疾患、脳卒中さらには早産のリスクを高めることが明らかになり、歯科がこれらの全身疾患を予防するために重要な役割を担っております。さらに薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）も増えてきております。



今月5月号でこの開放型病院広報紙「つばさ」が第200号という節目を迎えられました。山鹿地区薬剤師会を代表いたしまして一言お祝いの言葉と御礼を述べさせていただきます。

毎月、山鹿市民医療センターの多彩な情報をお知らせいただきまして誠にありがとうございます。山鹿市民医療センター関連の活動、各診療科、各部所の紹介、そこに勤務されておられる医師・看護師をはじめ、各部所のスタッフの方達が、どのような機械・機器を使って検査をして、診断・治療をしておられるのか、その概要を知ることができました。

また、医療最前線コーナーでは専門の先生方が各分野の話題の疾患について、分かり易く紹介いただき、症状、検査、診断、治療の最新の情報を知る事ができました。

他にも、県や市行政との連携活動、公開講座、イベント等についても案内していただき、そこで初めて知るような事もありました。

超高齢社会になり疾病構造が多様化し、医療の現場では情報の共有とその伝達がますます重要になっており、より密な医療連携・多職種連携が求められております。医療連携は単に治療の効率を高めるだけではなく、患者の生活の質を向上させ医療システム全体の質を向上させるために欠かせないものだと思います。医療機関の協力を強化し患者にとってより良い医療環境を提供するためにも、山鹿市民医療センターにはこれまで以上に医療の中核として、更なる発展をされることを祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

山鹿市歯科医師会

会長 河原 正明

山鹿市歯科医師会 会員一同

そして地域の開業の先生方の紹介もあり、それぞれの分野で市民医療センターとの強い連携も知ることができて、ありがたく拝見しております。

我々、地域の薬局薬剤師は、この「つばさ」で知り得た情報・知識を、それぞれの薬局で、患者さんやその家族の方達に、日常の会話や服薬指導の中に取り入れ、市民医療センターの受診科目や地域の医療機関の推奨にも利用させていただいております。

このような多彩な情報、記事を数多く、またバランスよく配置して毎月毎月切らさずに発行され、200号にたどり着かれた地域医療連携室のスタッフの皆様のご苦勞は並大抵のものではなかったかとお察し申し上げます。これからも大変でしょうが、引き続き「つばさ」を刊行していただき、地域の皆様の健康維持に役立たせていただけるよう祈念いたしまして、御礼の言葉とさせていただきます。

山鹿地区薬剤師会

会長 江上 祥一

# 山鹿市民医療センターのこれまで

## ～「つばさ」200号によせて～

院長 石河 隆敏

山鹿市民医療センターの歩みは山鹿の地域とともにあります。

1948年（昭和23年）に「山鹿町国民健康保険組合診療所」として開設され、地域住民の健康を守るための第一歩を踏み出しました。そして1954年、当時の鹿本郡山鹿町と7村が合併して、山鹿市としての市制が施行されました。当センターもこの年から「国民健康保険山鹿市立病院」となり、74床の入院病床を備えて地域医療の基盤を築きました。



1960年代 外来・病棟

経済発展が進む日本社会を背景に病棟の増築、設備の拡充が図られ、1964年に「山鹿市立病院」と改称、214床の地域中核病院となりました。1968年には当センター敷地において温泉が掘削されたという記録もあり、豊かになりつつある世相を思わせるものがあります。当センターでの人間ドックが始まったのもこの年で、健康への意識が高まってきた社会のニーズに則した対応といえます。1971年に鉄筋4階建ての中央病棟が建設され、254床まで増床され、当センター史上最大の一般病床を有する時代を迎えました。



「つばさ」創刊号

1985年には病院東側に外来棟が建設され、この1階部分は現在も使われ続けています。1993年には一部の結核病床が廃止され、209床となります。そして、2005年には1市4町合併により現在の新山鹿市となりました。この年には普及してきたインターネットに対応するべく、当センターHPを開設し地域とのつながりに新たなツールを導入しております。また、新市誕生がひとつの転機となり、2008年に現在の新病棟と新外来棟の建設案が承認されました。

これをきっかけに、当時の本郷病院長が地域との結びつきを高めるために病院広報誌を企画され、2008年10月に広報誌「つばさ」第1号が発刊されました。2010年に圏域医療の要となる地域医療支援病院の指定を受け、2011年に新棟が竣工し、当センターは「山鹿市民医療センター」としてグランドオープンしました。なお、病院名称は市民からの公募によって名付けられたもので、地域住民と共生する当センターの姿勢を表すものともいえます。

新病棟の運用とともに画像診断や検査機器などの高度医療機器が次々と導入され、時代に対応した専門的で多様な医療サービス体制の整備に努めました。さらに、2012年には地域唯一の緩和ケア病棟をオープンし、同年、熊本県指定のがん診療連携拠点病院にも指定されることとなりました。消化器がんを中心とした内視鏡治療や低侵襲手術、がん薬物療法専門医による新規抗がん剤治療、がん総合的診療チームの立ち上げ等を通じて、国策である「がん対策」に注力し、地域に最新のがん医療を提供することに努めてきました。

まだ記憶に新しい2015年の熊本地震の際には最新の免震構造を有する新棟がその力を発揮し、大きな支障を来すことなく地域に向けた医療活動を継続できました。そして医学史に残る2020年以降の新型コロナウイルス感染のパンデミックでは、第二種感染症指定医療機関として当センターが地域の医療施設と連携してこの対応にあたったことは病院史に刻まれるべき史実と考えています。



2010年 新病棟（左側）建設

「つばさ」創刊から17年が経過しましたが、当センターの基本理念は変わらず、「地域住民の命と健康への貢献」です。我が国の医療構想に基づく地域医療支援病院であり、地域の救急指定病院として機能し、近年クローズアップされてきた災害拠点病院の役割も担っています。歴史を振り返ると、山鹿市民医療センターは時代の流れとともに、地域社会の要請に応じて変遷を遂げてきたことを感じます。今後とも地域の皆様と「つばさ」を通じて永く交流し、ともに歩んでいくことを願っております。

## 山鹿市民医療センターの沿革

年度	摘要	年度	摘要
昭和23年	山鹿町国民健康保険組合診療所開設	平成20年	山鹿市立病院病棟等改築工事着工(7.10) 開放型病院広報紙「つばさ」創刊(10.1)
昭和25年	国民健康保険山鹿病院と改称	平成21年	公立病院改革プラン策定、DPC開始
昭和26年	外科新設	平成22年	地方公営企業法全部適用、新病棟運用開始(5.15・ 免震棟・5階建)、シネアングロ装置導入 ハイケアユ ニット6床取得、診療材料院内SPD開始
昭和29年	市制施行により国民健康保険山鹿市立病院と改称	平成23年	「山鹿市民医療センター」へ名称変更(4.1)、グランド オープン記念式典(4.16)、医薬品簡易SPD導入、産 婦人科再開、新外来棟工事竣工、業績評価導入、業 績評価本格実施、外来化学療法室完成、医療機能評 価(Ver.6)認定、熊本DMAT指定病院指定、山鹿市民 医療センター改革プラン(平成24年3月改訂版)策 定
昭和30年	中央病棟、給食棟、手術棟、ボイラー棟増築	平成24年	緩和ケア病棟開棟、整形外科・呼吸器内科の紹介型 外来診療開始、糖尿病専門外来を開設、高気圧酸素 治療再開、院内保育所で診療、妊婦健診時の時間保 育を開始、熊本県指定がん診療連携拠点病院の指定
昭和36年	公営企業法「財務規程等の一部」適用、南病棟建設	平成25年	訪問看護室「菜の花」開所、電子カルテ導入
昭和38年	鹿本郡市医師会附属准看護高等専修校実習生受託 開始	平成26年	精度保証施設認定(4.1)、小児科外来再開(5.1)、 地域包括ケア病棟開設(9.1)
昭和39年	山鹿市立病院と改称	平成27年	消化器内科再開(入院)、超音波内視鏡導入、睡眠時 無呼吸症候群(SAS)検診開始
昭和44年	人間ドック開始	平成28年	日本肝臓学会認定施設認定(4.1)、肝癌集学的治療 グループ立ち上げ、腫瘍内科外来診療開始、病院機 能評価(評価項目3rdG:Ver.1.1)認定取得(12.18)、 日本消化器病学会認定施設認定(1.1)、山鹿市民医 療センター病院改革プラン策定(3.31)
昭和46年	中央病棟(鉄筋4階)建設	平成29年	熊大医学部特別臨床実習生(クリクラ)受入れ開始 日本消化器外科学会専門医修練施設認定取得 (1.1)
昭和47年	特一類基準看護許可	平成30年	日本胆道学会認定指導医制度指導施設認定(7.1) 熊本県地域医療拠点病院指定(3.27)
昭和50年	看護婦管理・救急当直制導入	令和元年	日本がん治療認定医機構認定研修施設認定(4.1) (平成31年) 日本消化管学会胃腸科正規指導施設(11.1)
昭和53年	理学診療科新設、小児科新設	令和3年	熊本医療センター臨床研修医受入れ開始
昭和55年	西病棟改築	令和4年	日本緩和医療学会研修施設認定(4.1) 熊本県看護職キャリア支援事業による熊本大学病院 との看護師相互出向研修開始(10.1)
昭和56年	伝染病院組合解散、伝病患者診療受託	令和5年	城北高等学校との包括連携協定締結(5.12) 病院機能評価(評価項目3rdG:Ver.2.0)認定取得 (11.10)
昭和57年	特二類看護許可	令和6年	山鹿市民医療センター病院経営強化プラン策定 (3.31)
昭和58年	再建対策審議会設置、泌尿器科新設、麻酔科新設、 整形外科研修施設認定		
昭和59年	東病棟改築、再建対策審議会答申提示		
昭和60年	外来棟(1階一部4階)建設、眼科、耳鼻咽喉科新設 結核病床20床減、眼科研修施設認定		
昭和61年	作業療法施設新設、マニホールド室建設、血管造影 装置購入		
昭和62年	病理検査室新設、泌尿器科研修施設認定、看護記録: POS導入		
昭和63年	開設40周年記念式典		
平成2年	全身用CTスキャナー設置		
平成3年	基準看護、給食、寝具承認、一般病床24床増床許可、 伝染病床19床減床許可		
平成5年	外来棟2・3階病棟増築、西病棟、中央病棟他改修、検 査室増築、呼吸器科、循環器科、消化器科新設、結核 病棟30床廃止許可		
平成6年	管理棟解体、外構駐車場整備、結核病棟廃止、作業 療法(Ⅱ)施設基準届出、薬剤管理指導施設基準届 出、新看護加算A届出		
平成8年	代謝内科新設		
平成10年	玉名女子校実習生受託開始、開設50周年記念式典		
平成11年	第二種感染症指定医療機関に指定(4床)		
平成13年	マルチスライスヘリカルCTスキャナー導入、1.5テス ラMRI導入		
平成15年	山鹿市立病院病棟等改築基本設計		
平成17年	新市誕生(1市4町合併(1.15))		
平成18年	医療機能評価ver.4取得、山鹿市立病院病棟等改築 実施設計		

## 第27回 日本医療マネジメント学会熊本支部学術集会開催報告

2025年3月15日に当センター主催の第27回日本医療マネジメント学会 熊本支部学術集会を開催いたし



ました。学術集会会長は別府 透山鹿市病院事業管理者で、「地域の未来に向けての病院づくり、Yes, we can !」を学会テーマに掲げました。当日はやや雨模様の天候でしたが、会場となった山鹿市民交流センターには、県内外から231名の方々に参加いただきました。



一般財団法人化学及血清療法研究所の馬場 秀夫理事長による特別講演「働き方改革時代のチーム医療」や西宮協立脳神経外科病院看護部の永野 彩乃医学博士／摂食嚥下障害看護認定看護師によるランチョンセミナー「地域の未来に必要な包括的食支援」等の企画講演がメイン会場で開催され、多くの聴衆が集まりました。別府学会長からは学会テーマを冠した会長講演が行われ、当センターの現状や地域との関

わり、将来像について述べられました。\*また、総数60題にのぼった公募演題は、7つの口演セッションと2つのポスターセッションで発表され、演者と参加者の活発な意見交換が行われました。メインセッションとなったパネルディスカッション「みんなで支える病院の未来、one for All」では日高 武英 公立邑智病院副院長からの基調講演後に、選出された7名のパネリストによる独創性のある各病院での取り組みが紹介されました。発表後の質疑では会場からの発言が相次ぎ、各演題とも高い関心を集めていました。



学会終了後に温泉プラザ山鹿で開催した懇親会は、山鹿の食や酒を味わい、歓談し、交流を深める場となりました。その日は温泉に入り、宿をとられた方々もおられ、様々なかたちで当地に触れていただけたようです。

昨年初めから1年以上にわたって準備してまいりましたが、病院全体で力を合わせ成功裏に幕を閉じることができました。ご支援いただきました山鹿市、鹿本医師会をはじめ協賛いただきました地元企業、医療機関の皆様方に深く御礼申し上げます。

(文責：院長 石河 隆敏)

※会長講演については  
当センター HP にてご覧いただけます。



## 新規採用職員紹介



**西 千春** (薬剤師)

4月から薬剤科でお世話になっております。今年で薬剤師10年目になります。前職でも病院薬剤師として働いていました。早く職場に慣れて、地域医療に貢献できるようにがんばりたいと思います。よろしくお願いいたします。



**佐藤 みづき** (薬剤師)

薬剤師として入職した佐藤です。今まで病院薬剤師として働いてきた経験を活かして、山鹿の地域医療に貢献していきたいと思っています。また、山鹿の良いところもたくさん知りたいと思っています。よろしくお願いいたします。



**瀬川 史奈** (診療放射線技師)

4月から放射線科でお世話になっております瀬川です。温泉に行くことや、美味しいものを食べるのが好きなので、おすすめの場所があれば是非教えてください。早く職場に慣れるように頑張ります。よろしくお願いいたします。



**古賀 仁実** (診療放射線技師)

放射線科でお世話になっております古賀です。病院での勤務は初めてですが、何事にも精一杯頑張ります。皆様が安心して生活できるよう努力していきます。笑顔を忘れず仕事に取り組みますので、よろしくお願いいたします。



**浦上 貴生** (言語聴覚士)

4月からリハビリテーション科でお世話になっております浦上です。皆様の力になれるように一生懸命頑張ります。よろしくお願いいたします。



**白石 浩平** (医療ソーシャルワーカー)

4月から医療ソーシャルワーカーとして勤務させていただくことになりました白石と申します。これまで、介護老人保健施設の支援相談員として約8年間勤務し、利用者様の在宅復帰や社会復帰に向けて、各医療、福祉機関との連携、相談支援を行ってまいりました。これからも経験を活かしつつ、患者さんがより早く、安心して社会復帰ができるよう努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。



**下岡 柚菜** (看護師)

4月から2階病棟に配属になりました下岡です。1日でも早く力になれるよう、日々努力を怠らず、多くの知識や技術を身につけることができるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。



**桑田 瑠奈** (看護師)

4月から3階病棟に配属になりました桑田です。小学生のころからの夢である看護師になることができ、とても嬉しく思います。感謝の気持ちを忘れず精一杯頑張りますので、ご指導よろしくお願いいたします。



**上村 麻衣** (看護師)

4月より4階病棟に配属となりました。3人の子どもの子育て中なので、体力には自信があります。よろしくお願いいたします。



**牛島 咲希** (看護師)

2階病棟に配属になりました。看護師4年目となり、今回地元である山鹿に戻ってきました。まだまだ未熟な私ですが、一生懸命頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

**嶋村 琴音** (看護師)

4月から4階病棟に配属になりました嶋村です。  
患者さんに寄り添い力になれるよう、日々学習し頑張っていきたいと思っていますので、ご指導よろしくお願ひします。

**山下 麻耶** (看護師)

3階病棟に配属になりました。  
八代の病院で働いていましたがこの度山鹿に来ることになりました。  
少しでもお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願ひします。

**小川 靖子** (看護師)

4月から本採用となりました小川です。  
長崎の病院で10年間働いた後、結婚・出産を経て夫の地元である山鹿にやってきました。  
一昨年の8月から3階病棟で勤務しています。  
育児と両立しながらですが、精一杯頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

**葉山 愛** (看護師)

4月から本採用になり4階病棟に配属になりました葉山です。  
少しずつ業務にも慣れ、整形外科の知識を勉強中です。  
これまでの経験を活かしながら精一杯頑張っていきたいと思ひます。  
よろしくお願ひします。

**中村 和央** (事務部)

4月より経営管理課に配属になりました。  
前職での経験を活かしつつ、当センターの発展に貢献できるよう頑張りますので、よろしくお願ひいたします。

**元松 貴雄** (事務部)

4月から経営管理課に配属となりました元松です。  
契約担当となりました。色々な部署の方々とやり取りをさせて頂くことになるかと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

**中山 敬太** (事務部)

4月から医事課に配属になりました中山です。  
少しでも早く業務を覚え、皆様に貢献できるよう頑張ります。  
よろしくお願ひいたします。

**古澤 美佳** (事務部)

4月から任期付き職員として医事課に配属になりました古澤です。  
少しでも早く業務に慣れ、皆様に貢献できるよう頑張ります。  
よろしくお願ひします。

## 第61回公開特別講演会のご案内

(日本医師会生涯教育講座 1単位)

取得カリキュラムコード 番号・コード名  
36. 視力障害、視野狭窄

下記により第61回特別公開講演会を開催いたします。  
多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

鹿本医師会会長 幸村 克典  
山鹿市病院事業管理者 別府 透

記

**日時**：令和7年5月9日(金) 19:00~

**形式**：ハイブリッド方式(オンライン参加or会場参加)

**会場**：オンライン参加 / Zoomミーティング  
会場参加 / 山鹿市民医療センター1階医療研修センター

**演題**：「失明原因第1位 緑内障を克服する試み」

**司会**：山鹿市民医療センター 病院事業管理者 別府 透 先生

**演者**：熊本大学大学院 生命科学研究部  
眼科学分野 井上 俊洋 教授

**参加費**：無料

**【参加要領】** 下記参加URL、又は参加QRコードからご参加ください。

(参加URL)：https://zoom.us/j/99898633811

(参加QRコード) ⇒

ミーティング ID：998 9863 3811

パスコード：706780

※ミーティングに参加される際の【名前】欄には、必ず「氏名」と「医療機関名」をご入力ください。

※快適にご視聴いただくため、イヤホンやヘッドセットのご使用をお勧めいたします。



**お問合わせ先** 📍 山鹿市民医療センター

地域医療連携室 西田、古家

TEL:0968-44-2185 FAX:0968-44-0071

※共催：鹿本医師会

山鹿市民医療センター医療研修センター運営委員会

# 外来担当医表

5月

診療科名	月	火	水	木	金
呼吸器内科	※古川 嗣大	※赤池 公孝	※後藤 英介	—	※後藤 英介
腫瘍内科	—	—	—	—	※宮本 英明
消化器内科	中垣 貴志	竹熊 梨祐	本原 利彦	中垣 貴志 竹熊 梨祐	本原 利彦
内分泌・代謝内科	川崎 修二	—	川崎 修二	—	川崎 修二
循環器内科	大庭 圭介 清水 博	大庭 圭介 清水 博	※中山 智子 清水 博	清水 博 大庭 圭介	大庭 圭介 清水 博
整形外科 (紹介外来制)	横田 秀峰 樽美 備一 山口 裕介	工藤 智志 湯本 みずほ 樽美 備一 / 山口 裕介	手術 (担当医)	工藤 智志 横田 秀峰 湯本 みずほ	手術 (担当医)
外科	別府 透 石河 隆敏	手術 (担当医)	別府 透(新患のみ) 石河 隆敏 増田 稔郎 / 辛島 龍一	手術 (担当医)	別府 透 増田 稔郎 辛島 龍一
乳腺外科(予約制)	—	※富口 麻衣	—	—	—
泌尿器科	中村 圭輔	再来のみ	今藤 淳之助	※神波 大己 教授	中村 圭輔
小児科	小澄 将士	小澄 将士	小澄 将士 (午後：予防接種)	小澄 将士(午前) ※石井 真美(午後)	小澄 将士
*小児科の午後は、16:00受付終了となります					
耳鼻咽喉科	—	非常勤医師	—	非常勤医師	—
眼科(予約制)	手術	特殊再来のみ	古島 京佳	古島 京佳	古島 京佳(午前) 非常勤医師(午後)
産婦人科	非常勤医師(午後) (受付14:00~16:00)	※片渕美和子(午後) (受付13:00~16:30) 婦人科・思春期・更年期	—	非常勤医師(午前) ★非常勤医師(午後) (受付14:00~16:00)	非常勤医師 (午前)
緩和ケア内科(予約制)	—	堀 和樹	—	堀 和樹	—
総合診療科	吉岡 明子	—	吉岡 明子	—	吉岡 明子
救急外来	泌尿器科医(午前) 吉岡 明子(午後)	吉岡 明子	大庭 圭介(午前) 清水 博(午後)	奇数週：担当医 偶数週：吉岡明子	外科医(午前) 消化器内科医(午後)
健診	高木 茂	高木 茂	高木 茂	高木 茂	高木 茂

※ 非常勤医師です。 ★ 第2、第4のみ診療となります。

◎当日の受診に関する相談を除くお電話は、平日14時から17時までが受付となります。

## 特殊・専門外来【予約制】

5月

名称	担当医等	実施日	診察場所
外来化学療法	担当医	毎週 火曜・水曜	各診療科
	※宮本 英明	毎週 金曜 (がん薬物療法専門医)	
禁煙外来	坂田 和子	毎週 月曜 (午後)	Aブロック
睡眠時無呼吸外来	坂田 和子	毎週 火曜・木曜 (午後)	
小児科予防接種	小澄 将士	毎週 水曜 (受付時間13:30~16:00)	
ストーマ外来	担当医	毎月 第3水曜 (午後)	Bブロック
PEG外来	担当医	毎月 第2水曜 (午後)	
セカンドオピニオン外来	各専門医が担当します。詳細はホームページをご覧ください。 予約については地域医療連携室にお尋ねください。		

◎急患の場合は、この限りではありません。

ご注意：学会等の都合で変更になる場合があります。

◆最新の担当表は、ホームページをご覧ください。

山鹿市民医療センター

〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地  
 TEL 0968-44-2185(代) FAX 0968-44-2420(代)  
 FAX 0968-44-0071(連携室直通)  
<http://yamaga-medical-center.jp>